

身体拘束をしないケアの工夫

(例：車椅子からのずり落ち)

①ケアの課題



②状態・状況の解釈



③本人の動機の確認

よくわからないけど、
まずは一緒に動いてみよう



④本人の意思を尊重したケア



介護老人保健施設

身体拘束ゼロをめざして

身体拘束ゼロは

みんなの決断から
一人のお年寄りから
業務より介護優先で
質の高いケアの始まり
選ばれる施設の出発点

社団法人 全国老人保健施設協会



身体拘束をしないケアの工夫

「身体拘束ゼロをめざす」とは、単に「身体拘束をゼロにする」ことではない。高齢者ケアの原則である「自立支援、QOLの向上、人権・自己決定の尊重、ノーマライゼーション（普通の生活）」などをケアの現場で、いかに着実に実践していくかということにある。

身体拘束をしない介護の糸口は、個人のさまざまな機能や能力の評価、要望の傾聴、行動パターンの把握、生活背景の理解などから見えてくる。また、本人と家族、他の利用者や職員との関係にも行動の変化を起こす原因がある場合もある。

さまざまな角度からチームで取り組むことが大切である。

拘束する前に“自分だったら、自分の家族だったら？”と考えてみよう！

人の言動には必ず本人なりの動機がある！

- ・要望は何だろう？
- ・なぜ、そうするのだろう？

人にはさまざまな能力がある！

- ・できることは何だろう？
- ・わかることは何だろう？
- ・していることは何だろう？

自立支援
QOLの向上
人権・自己決定の尊重
ノーマライゼーション
環境調整

ケアの課題	安易な対応	拘束の類型	介護の糸口（評価および状態の解釈の仕方）	身体拘束をなくすケアの工夫例
<ul style="list-style-type: none"> ・点滴などのチューブをはずす ・脱衣行為 ・おむつを取る ・皮膚をかきむしる ・不潔行為 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四肢をひもで固定 四肢を縛る ・ミトン型の手袋 手を縛る ・介護衣 つなぎ服 	四肢や手指の自由を奪う	<ul style="list-style-type: none"> ・チューブが目ざわりなのではないか、違和感はないか ・不安・恐怖感はないか ・処置への不満はないか ・脱水はないか ・経口摂取はできないか ・暑いのではないか ・かゆいのではないか、痛いのではないか ・かぶれているのではないか ・おむつが濡れているのではないか、排泄パターンの見直し <p>など</p>	健康管理・基本的ケア <ul style="list-style-type: none"> ・チューブを視野に入らないようにする ・関心が他に向くようにする（手のアクティビティ、他者との交流、音楽、読書など） ・注入・注射の時間や回数の検討と工夫 ・嚥下訓練 ・バリエーションのある嚥下食 ・全身の観察と対応 ・衣類の調整 ・皮膚の治療・保湿対策 ・濡れたおむつをすぐに換える <p>など</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・じっと座っていない ・車椅子からずり落ちる ・歩行の不安定 ・転倒 ・転落 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全ベルト Y字型拘束帯、腰ベルト ・ベッド柵 畠 ・ベッドに身体をひもで固定 体幹や四肢を縛る 	起き上がりや立ち上がりの自由を奪う	<ul style="list-style-type: none"> ・どこかへ行こうとしたのではないか ・座位姿勢や下肢機能の改善はできないか（移動能力の評価） ・履物は適切か ・床がすべるのではないか ・ベッドの配置が悪いのではないか ・長時間の座位でお尻や腰が痛いのではないか ・尿意・便意があるのではないか（排泄パターンの見直し） ・空腹や口渴を感じているのではないか ・何も興味をひくものがなのではないか <p>など</p>	リハビリテーションの強化・残存能力の活用・環境調整など <ul style="list-style-type: none"> ・いっしょに動いてみる ・環境の整備 ・身体に合った椅子・クッション・車椅子 ・座位姿勢や下肢機能の理学療法 ・全身の観察と対応 ・除痛対策 ・排泄訓練、便秘の改善 ・軽食や飲み物の提供 ・興味のあるアクティビティの提供 <p>など</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・徘徊 ・異食 ・暴力・暴言 ・妄想 ・大声、不穏 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過剰な薬物 見えない抑制 ・居室等に閉じ込める 隔離 	考えることや行動の自由を奪う	<ul style="list-style-type: none"> ・何か探しているのではないか ・身体の異変があるのではないか ・不快なものはないか（便秘による不快感など） ・不安のではないか、さびしいのではないか ・何も興味をひくものがなのではないか ・状況理解がうまくできないのではないか ・接遇に問題（言葉による抑制など）はなかったか ・認知がうまくできないのではないか ・生活リズムが崩れているのではないか <p>など</p>	情緒の安定・環境調整 <ul style="list-style-type: none"> ・全身の観察と対応 ・周囲との関係・状況の把握と調整 ・混乱を増強させる刺激を少なくする ・安心感の提供（寄り添う・話をよく聞くなど） ・興味のあるアクティビティの提供、他への関心 ・環境の整備（とくに危険物の除去） ・1日の生活の評価と対応 ・軽食や飲み物の提供 <p>など</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他室侵入 ・離設（離苑）行為 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施錠 監禁 	行動範囲の制限 出入りの自由を奪う	<ul style="list-style-type: none"> ・家に帰りたがっている、買い物に行きたがっているのではないか ・誰かを探しているのではないか ・自分の部屋がわからないのではないか ・周りになじんでいないのではないか ・何か心配していることがあるのではないか <p>など</p>	生活空間の拡大・関係づくり <ul style="list-style-type: none"> ・安心感の提供（存在感や自信を取り戻す） ・環境の整備（家族的雰囲気づくり・目印の工夫など） ・いっしょに外に出てみる ・面会回数を増やすしてみる ・在宅復帰の検討 ・他部署・地域への協力依頼、所在の確認 <p>など</p>